

# 2014年3月期 決算説明会



2014年5月9日

 **丸文株式会社**

(証券コード：7537 東証1部)

# 2014年3月期 連結決算概要

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・2013年度決算につきましてご説明いたします。

## 2014年3月期 連結決算サマリ (対前年度比)

### 売上高は、402億円 (+18.3%) の増収

- **デバイス事業** 通信モジュール向け特定用途ICやPCおよび周辺機器向けメモリーICが好調で17.7%増
- **システム事業** 医用機器、試験計測機器の増加、持ち分法適用会社の子会社化で21.7%増

### 営業利益は、9.2億円 (+30.8%) の増益

### 経常利益は、14.4億円 (+57.8%) の増益

- 持分法投資利益の増加 (1.1億円)、為替差損の減少 (△2.7億円)
- 5期連続の増益を達成

### 当期純利益は、11.5億円 (134.2%) の増益

- 前期計上の特別損失の減少 (△6.6億円)

## 2014年3月期 業績サマリ

(百万円)	13/3月期		14/3月期		対前年度比		【ご参考】 従来予想	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	(13/10予想)	構成比
<b>売上高</b>	<b>220,200</b>	<b>100.0%</b>	<b>260,424</b>	<b>100.0%</b>	<b>40,224</b>	<b>18.3%</b>	<b>253,000</b>	<b>100.0%</b>
デバイス事業	187,247	85.0%	220,325	84.6%	33,078	17.7%	214,800	84.9%
システム事業	32,953	15.0%	40,098	15.4%	7,145	21.7%	38,200	15.1%
<b>売上総利益</b>	<b>17,763</b>	<b>8.1%</b>	<b>18,842</b>	<b>7.2%</b>	<b>1,079</b>	<b>6.1%</b>	<b>18,250</b>	<b>7.2%</b>
販売管理費	14,771	6.7%	14,930	5.7%	159	1.1%	14,750	5.8%
人件費	9,317	4.2%	9,437	3.6%	120	1.3%	-	-
その他	5,454	2.5%	5,493	2.1%	39	0.7%	-	-
<b>営業利益</b>	<b>2,991</b>	<b>1.4%</b>	<b>3,912</b>	<b>1.5%</b>	<b>921</b>	<b>30.8%</b>	<b>3,500</b>	<b>1.4%</b>
営業外収益	640	0.3%	708	0.3%	68	10.6%	-	-
営業外費用	1,132	0.5%	675	0.3%	△ 457	-40.4%	-	-
<b>経常利益</b>	<b>2,500</b>	<b>1.1%</b>	<b>3,944</b>	<b>1.5%</b>	<b>1,444</b>	<b>57.8%</b>	<b>3,350</b>	<b>1.3%</b>
特別利益	124	0.1%	12	0.0%	△ 112	-90.3%	-	-
特別損失	731	0.3%	70	0.0%	△ 661	-90.4%	-	-
<b>当期純利益</b>	<b>857</b>	<b>0.4%</b>	<b>2,008</b>	<b>0.8%</b>	<b>1,151</b>	<b>134.3%</b>	<b>1,675</b>	<b>0.7%</b>
期末従業員数 (名)	1,235	-	1,245	-	-	-	-	-

www.marubun.co.jp

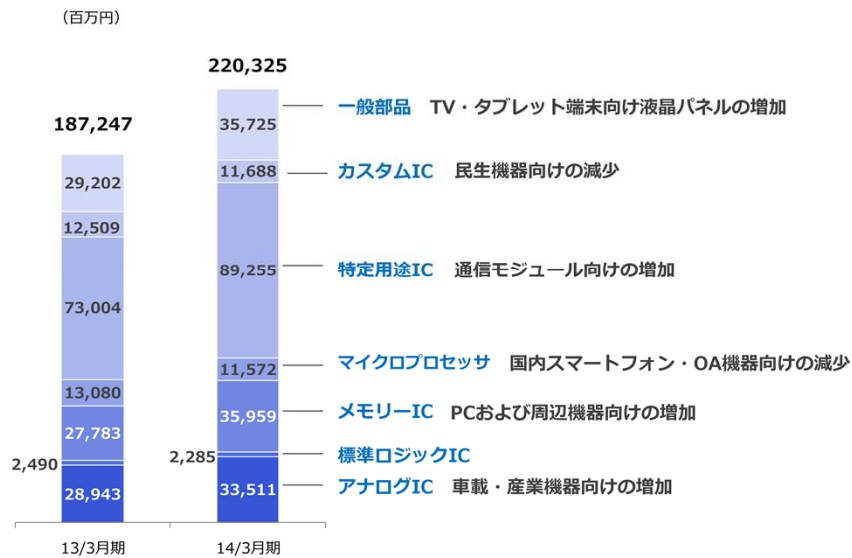
Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

4

- ・連結売上高は、前年度に比べ18.3%増の2,604億円になりました。
- ・これは、前年度に引き続き通信モジュール向けの特定用途ICが好調を維持したことに加え、PC向けメモリーICや医用機器の売上が伸長したことによるものです。
- ・利益面では、営業利益が30.8%増の39億円、経常利益も57.8%増の39億円となり、5期連続の増益を達成することができました。
- ・なお、昨年10月に公表した業績予想の数値と比べますと、売上高で74億円、経常利益で6億円の上振れとなりました。
- ・これは、医用機器とタブレット向けの半導体・電子部品の販売が予想より増加したことによるものです。

## 2014年3月期 デバイス事業品目別売上高



www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

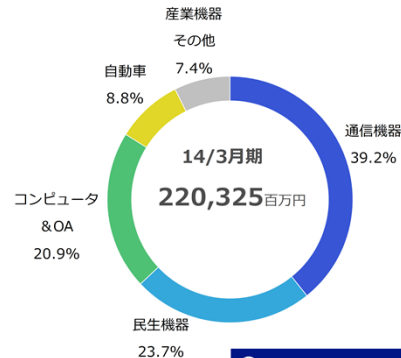
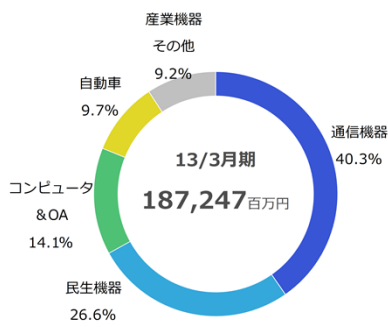
丸文株式会社

5

- ・売上の増減要因についてご説明いたします。
- ・デバイス事業の売上は330億円増加の2,203億円となりました。
- ・アナログICは、車載向けや産業機器向けが増加しました。
- ・メモリーICは、PCおよび周辺機器向けのDRAMやフラッシュメモリーが増加しました。
- ・マイクロプロセッサは、タブレット向けが増加する一方、国内向けのスマートフォンやOA機器向けが減少しました。
- ・特定用途ICの大幅な増加は、通信モジュール向けの需要増によるものです。
- ・また、電子部品では、TVやタブレット向けの液晶パネルが増加しました。

## 2014年3月期 デバイス事業用途別市場動向

用途	市場動向
通信機器	通信モジュールやスマートフォン向けが増加
民生機器	TV向けが増加
コンピュータ&OA	PCおよび周辺機器、タブレット向けが増加
自動車	ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加
産業機器その他	産業用モータ向けが減少



Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

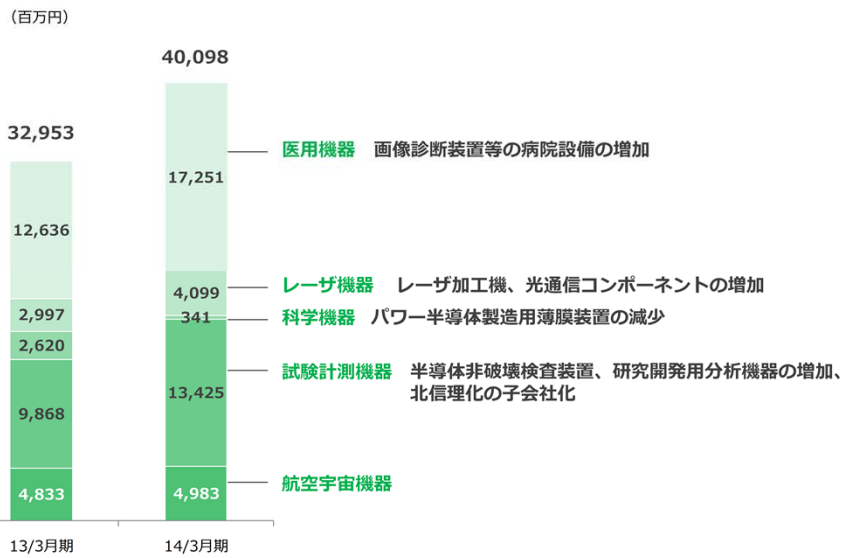
丸文株式会社

www.marubun.co.jp

6

- 用途別の動向についてご説明いたします。
- 2013年度の売上構成比は、通信機器が39.2%、民生機器が23.7%、コンピュータ・OAが20.9%、自動車向けが8.8%となりました。
- 通信機器は、通信モジュールやスマートフォン向けが増加しました。
- コンピュータ・OAは、PCおよび周辺機器向けメモリーICが大幅に増加し、タブレット向けもマイクロプロセッサや液晶パネルが増加しました。
- 自動車は、ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加しました。

## 2014年3月期 システム事業品目別売上高



Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

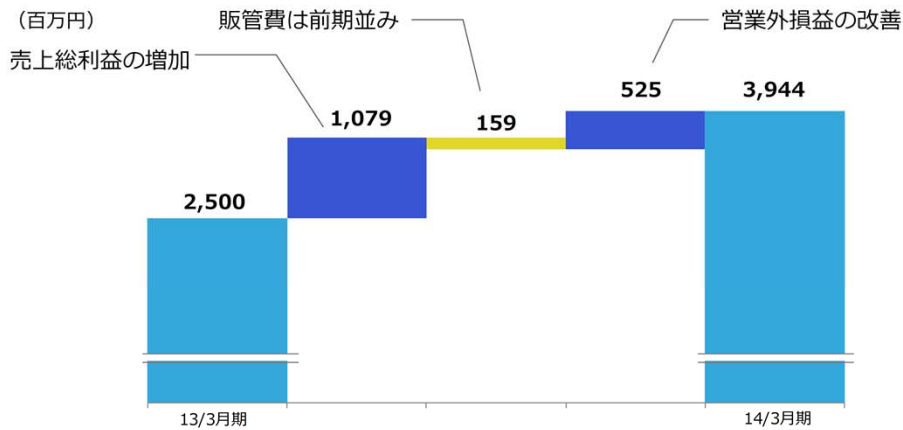
丸文株式会社

www.marubun.co.jp

7

- ・システム事業の売上は71億円増加の400億円となりました。
- ・試験計測機器は、スマートフォンやタブレット用の電子部品検査装置が設備投資の一巡により減少したものの、半導体非破壊検査装置の需要増や持分法適用会社の子会社化により売上が増加しました。
- ・レーザー機器の増加は、光通信コンポーネントやレーザー加工機の増加によるものです。
- ・医用機器は、画像診断装置が大幅に増加しました。

## 2014年3月期 経常利益の増減要因



売上総利益 **売上増による増加** 13/3月期：177億円 ⇒ 14/3月期：188億円

販管費 **退職給付費用等の増加** 人件費+120百万円、経費+39百万円

営業外損益 **持分法投資利益の増加、為替差損の減少**  
持分法投資利益+116百万円、為替差損△276百万円

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

8

- ・経常利益の増減要因についてご説明いたします。
- ・売上総利益についてですが、売上の増加に伴って前年度に比べ10億の増加となりました。
- ・販管費は前年度並みを維持、営業外損益は為替差損が前年度の4億1千万円から1億4千万円へと減少し、持ち分法投資利益が1億1千万円増加しました。
- ・以上の結果、経常利益は39億円となりました。



## 2014年3月期末 貸借対照表の概要

(百万円)	13/3月期末 実績	14/3月期末 実績	対前期末比 増減額
流動資産	93,799	99,510	5,711
現金及び預金	17,440	19,151	1,711
受取手形及び売掛金	48,299	60,944	12,645
たな卸資産	25,426	16,931	△ 8,495
その他	2,633	2,484	△ 149
固定資産	10,943	11,124	181
有形固定資産	4,302	4,277	△ 25
無形固定資産	406	402	△ 4
投資その他資産	6,234	6,445	211
<b>資産合計</b>	<b>104,743</b>	<b>110,635</b>	<b>5,892</b>
流動負債	49,042	65,114	16,072
支払手形及び買掛金	33,523	39,910	6,387
短期借入金等(※1)	11,743	22,143	10,400
その他	3,775	3,061	△ 714
固定負債	18,153	3,050	△ 15,103
長期借入金等(※2)	16,037	1,013	△ 15,024
その他	2,115	2,037	△ 78
<b>負債合計</b>	<b>67,195</b>	<b>68,165</b>	<b>970</b>
<b>純資産合計</b>	<b>37,547</b>	<b>42,469</b>	<b>4,922</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>104,743</b>	<b>110,635</b>	<b>5,892</b>

※1 短期借入金+1年内返済予定の長期借入金+1年内償還予定の社債

※2 社債+長期借入金

売上増加に伴う増加  
メモリーICなど在庫の減少

半導体や医用機器の  
需要増に伴う増加

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

9

- ・貸借対照表の主要科目についてご説明いたします。
- ・総資産は、売上債権や現預金の増加により前年度末に比べ58億円の増加となりました。
- ・在庫は85億円減少の169億円となりました。
- ・負債については、仕入債務の増加により、前年度末に比べ9億円の増加となりました。

## 2014年3月期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	13/3月期	14/3月期	
	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,301	5,999	
税引前当期純利益	1,892	3,886	
売上債権の増減額 (△は増加)	19,256	△ 10,445	売上増に伴う増加
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 2,255	9,089	
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 9,678	4,604	半導体や医用機器の 需要増に伴う増加
その他	△ 912	△ 1,134	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 406	△ 162	
フリー・キャッシュ・フロー	7,894	5,837	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,261	△ 5,382	短期借入金の純減 (4,726百万円)
現金及び現金同等物の増減額	△ 512	1,565	
現金及び現金同等物の期末残高	17,410	18,976	

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

10

- キャッシュフローの状況についてご説明いたします。
- 営業キャッシュフローは、59億円の資金の流入となりました。
- これは主に、税金等調整前当期純利益が38億円となったことと、棚卸資産の減少によるものです。
- 投資キャッシュフローは、1億円の流出となり、この結果、フリーキャッシュフローは58億円になりました。
- 財務キャッシュフローは、短期借入金の純減により53億円の資金の流出となりました。
- 以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は189億円となりました。

# 中期ビジョン 事業戦略と重点施策の進捗

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- 中期のビジョンと事業戦略についてご説明いたします。

**中期経営ビジョン**  
**「持続的な成長が図れる**  
**筋肉質な企業の実現」**

**中期経営スローガン「Think & Action」**

構造変化をチャンスと捉え、  
競争力を強化し、独自の差別化を展開

www.marubun.co.jp

**事業環境における構造変化**

**日本経済：**

企業収益の改善、設備投資や個人消費の持ち直しにより回復基調

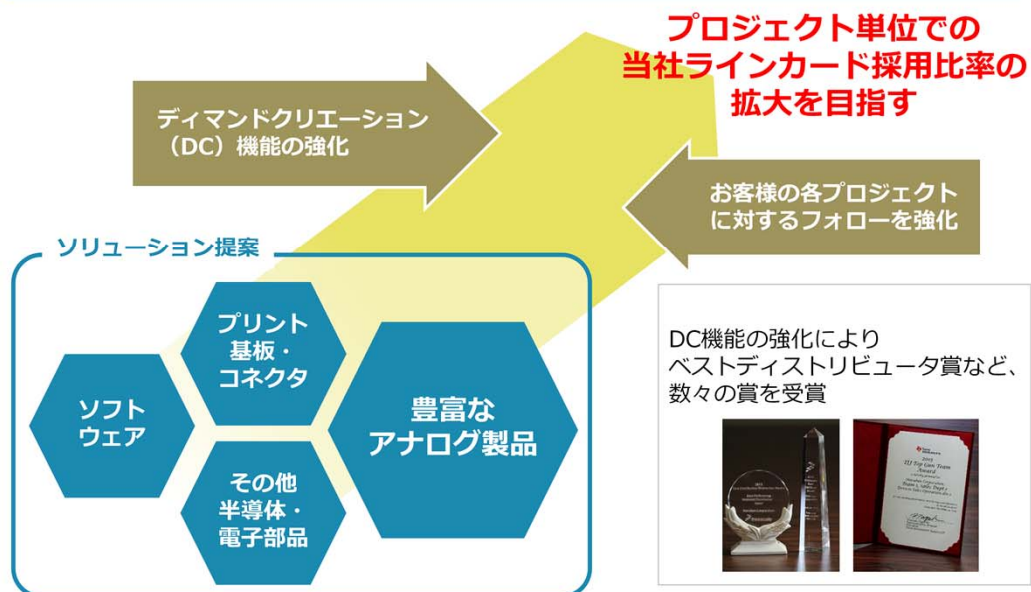
**日本のエレクトロニクス市場けん引分野：**

民生・通信機器 ▶ 自動車・産業・環境・医療機器

- わが国の経済は、昨年来の政府の経済対策や金融政策の効果により輸出が持ち直し、企業収益が改善しました。
- こうした動きに関連し、日本のエレクトロニクス市場も大きく変化しております。
- これまで市場をけん引してきた民生機器や通信機器はグローバル市場で厳しい競争を強いられる一方で、自動車やロボット・メカトロニクスなどの産業機器、あるいは環境・医療の分野では革新的な技術でシェアを伸ばしてきています。
- 私はこの「経済」と「エレクトロニクス市場」の構造変化をビジネスチャンスと捉え、競争力を強化し、勝ち抜いてまいります。
- それを実現するプログラムが中期経営計画「Think & Action」です。
- この「Think & Action」は、戦略的にターゲットを定め、行動を起こすことで成熟した市場からの脱却を図るものです。
- 当社独自の差別化の展開により「持続的な成長が図れる筋肉質な企業」を目指してまいります。

## デバイス事業：重点施策の概要①

### ベースビジネスの拡大



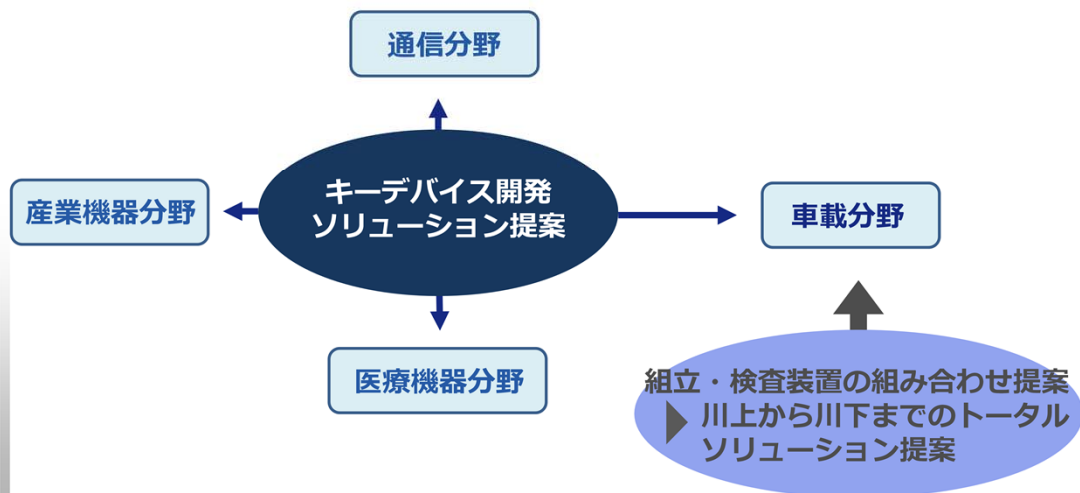
Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

13

- 中期ビジョンに基づく、今年度の事業戦略についてご説明いたします。
- まず、デバイス事業についてご説明いたします。
- 1点目は、「ベースビジネスの拡大」です。
- 豊富な品揃えのアナログ製品を中心に、各種半導体やコネクタ、プリント基板などの電子部品あるいはソフトウェアなどを組み合わせたソリューション提案を積極的に展開いたします。
- また、新規案件の獲得数などをKPIに用い、お客様の各プロジェクトに対するフォローを徹底することで、プロジェクト単位での当社ラインカードの採用比率の増加を目指してまいります。
- 2013年度にはこの様な当社の取組みが評価され、ベストディストリビュータ賞など様々な賞を受けることができました。
- 今後も引き続きデマンドクリエーション機能の強化によるシェアアップと商権の拡大に繋がる取り組みを強化してまいります。

## デバイス事業：重点施策の概要②

### 成長市場への対応強化



www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

14

- 2点目は成長市場への対応強化です。
- 通信、車載、医療・産業機器をターゲット市場と定め、コアとなるアプリケーションに搭載されるキーデバイスやソリューション提案の開発・拡充に取り組みます。
- 車載市場につきましては、市場を深耕するため、システム事業で扱っていた車載デバイス向け組立・検査装置をデバイス事業に取込みました。
- これにより川上から川下までトータルで当社独自のソリューションを提案できる体制が構築できました。

## デバイス事業：重点施策の概要③

### 新規商材の開発推進

- 半導体
  - カスタムIC
    - OpenSilicon社およびBaysand社ASICの受注推進
  - フラッシュメモリー
    - SanDisk社組み込み式フラッシュメモリー、SSDを産業用途向けに販売推進
- 環境
  - 太陽光パネルの品揃え充実（薄膜系～結晶系）
  - 「営農型発電設備 Solar営農」の販促強化
- 新規商材発掘
  - 米国に専従の駐在員を配置



Baysand社ASIC製品



SanDisk社SSD製品



「Solar 営農」

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

15

www.marubun.co.jp

・3点目は新規商材についてです。

・OpenSilicon社およびBaysand社のカスタムICの開発が進み、今年度下期より利益に貢献し始める予定です。

・米国Sandisk社については、従来のメモリカードに加え、組み込み式のフラッシュメモリーやSSDについても取扱いを開始し、OA機器やサーバーなど産業用途に向けて販売活動を進めております。

・また、3年前より取り組んできた太陽光パネルのビジネスでも、薄膜系から結晶系まで品揃えを拡充しました。

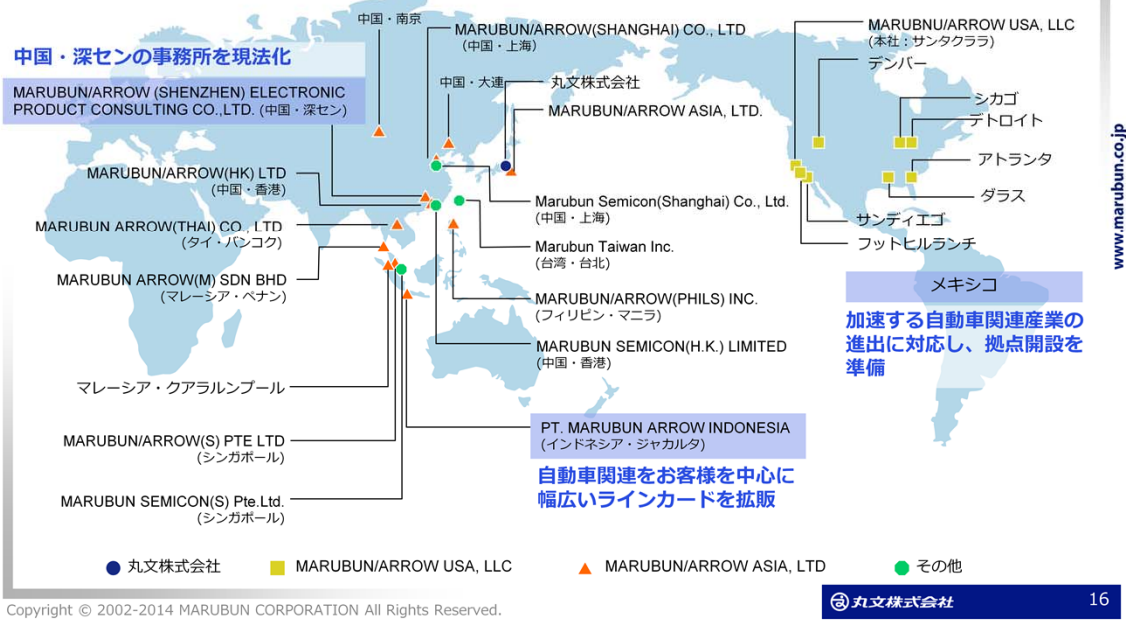
・農地を利用して太陽光発電を行う「営農型発電設備 Solar営農」の販促活動を積極展開しており、今後の売上拡大が期待できる状況にあります。

・新規商材については、開発強化のため、今年度より米国に専従の駐在員を置きました。

・北米の先進的でユニークなデバイスの発掘を進めてまいります。

## デバイス事業：重点施策の概要④

- 自動車関連産業の生産拠点の拡がりを中心に、グローバル対応を強化



- ・4点目はグローバル対応の強化で、海外拠点の更なる拡充に取り組めます。
- ・昨年度は中国・深センの事務所を現法化するとともに、インドネシアにも現地法人を開設いたしました。
- ・インドネシアでは、自動車関連のお客様を中心に半導体からコネクタやプリント基板までの幅広いラインカードを拡販していく計画です。
- ・自動車関連産業の進出が加速しているメキシコにおいても、今年度中の拠点開設を予定し準備を進めております。



2015年3月期 システム事業戦略・重点施策概要

「カスタマーイン」の思想により  
収益性の向上と事業の安定化を図る

エンジニアリングサービス拡充

グループカを  
総動員した  
販売活動

商品ラインナップ増強

S I 強化

レーザ・ 情報機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業向けレーザの販売注力</li> <li>オリジナルレーザ微細加工装置の販売促進</li> </ul>
試験計測・ 科学機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体非破壊検査システムの拡販</li> <li>フォトリソグラフィプロセスインテグレーションシステムを販売開始</li> </ul>
医用機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域密着型営業活動の推進</li> <li>技術サービス力の強化と販路の拡大</li> </ul>
科学機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーデバイス製造向けCVD装置に加え、MBE装置を販売開始</li> </ul>
航空宇宙機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空・防衛領域での顧客拡大</li> <li>自動車・社会インフラ向けセンサー、解析装置の商材拡充</li> </ul>

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

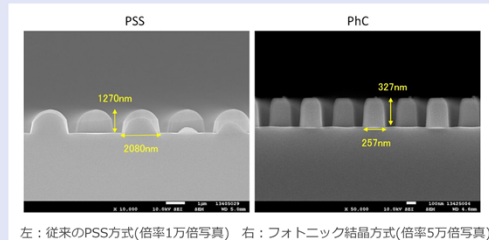
17

- ・システム事業についてご説明いたします。
- ・システム事業では、個々のお客様のニーズに応じてソリューションやサービスを提供する「カスタマーイン」の思想で、収益性の向上とビジネスの安定化を図っております。
- ・具体的には、ご覧の製品分野ごとに、お客様が求める商品の品揃えを増強するとともに、システムインテグレーションやエンジニアリングサービスによる差別化に取り組んでいます。
- ・レーザ機器では、産業向けレーザの拡販に注力します。産業機器への組み込み用として米国nLight社の高出力半導体レーザを拡販するとともに、自動車、輸送機向けには独国Laserline社の金属焼き入れ装置の拡販を推進してまいります。
- ・当社オリジナルのレーザ微細加工装置についても、プリンターノズル、フラットディスプレイの量産加工用に採用が進み、売上が拡大する見込みです。
- ・医用機器については、CTスキャンやMRIなどの大型医用機器の販売が好調に推移し、2013年度は過去最高の売上となりました。今後も地域密着型の営業活動で需要の深堀を進めつつ、技術サービス力の向上と販路の拡大に努めてまいります。
- ・試験計測機器では、昨年度、熱解析装置とX線検査装置を組み合わせた非破壊検査のソリューション提案を行い、多くの受注を獲得することができました。

## 『フォトニック結晶プロセスインテグレーションシステム』販売開始 結晶技術でLEDの発光効率を大幅に向上

(株) アルバック、東京応化工業(株)、東芝機械(株)、ならびに産業技術総合研究所、理化学研究所との共同研究で、LED製造プロセスにおいて、光の取り出し効率を大幅に改善できるシステムを開発し、販売を開始いたしました

- LED製造工程で最終的に光を外部に放出するサファイア基盤層に、独自のパターンを持つフォトニック結晶層をナノインプリントとドライエッチングにより形成
- 従来のPSS方式では約30%の光取り出し効率を最大80%にまで増加可能
- パターンの深さも約1/5になり、ドライエッチング時間が短縮、製造コストを大幅に抑制



従来のPSS方式に比べ、パターンの深さが大幅に減少

- また、先般プレスリリースしました通り、当社では、ナノインプリント技術を用いたフォトニック結晶プロセスインテグレーションシステムと特許ライセンスの販売を開始しました。
- この装置はLED製造プロセスにおいて光の取り出し効率を大幅に改善できる画期的なシステムです。当社が理化学研究所などと共同研究を行い、開発しました。次世代技術をいち早く市場に供給し、高効率LEDの製造分野における当社の地位を確立していきたいと考えております。
- システム事業では、グループ企業の総力を結集した販売活動で、事業の着実な成長を進めてまいります。

# 2015年3月期 連結業績予想概要

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・事業戦略に基づく今年度の見通しと中期目標についてご説明いたします。

## 2015年3月期 業績予想サマリ

### 売上高は、2,630億円 (+25.8億円) の見込み

- **デバイス事業** タブレット向けマイクロプロセッサの増加、通信モジュール向け特定用途ICの減少を見込む
- **システム事業** 医用機器の減少を見込む

### 営業利益は、41億円 (+1.8億円) の見込み

### 経常利益は、40億円 (+0.5億円) の見込み

### 当期純利益は、21億円 (+0.9億円) の見込み

www.marubun.co.jp

## 2015年3月期 業績予想

(百万円)	14/3月期		15/3月期		対前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	%
<b>売上高</b>	<b>260,424</b>	<b>100.0%</b>	<b>263,000</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,576</b>	<b>1.0%</b>
デバイス事業	220,325	84.6%	224,000	85.2%	3,675	1.7%
システム事業	40,098	15.4%	39,000	14.8%	△ 1,098	-2.7%
<b>売上総利益</b>	<b>18,842</b>	<b>7.2%</b>	<b>19,100</b>	<b>7.3%</b>	<b>258</b>	<b>1.4%</b>
販売管理費	14,930	5.7%	15,000	5.7%	70	0.5%
<b>営業利益</b>	<b>3,912</b>	<b>1.5%</b>	<b>4,100</b>	<b>1.6%</b>	<b>188</b>	<b>4.8%</b>
営業外収益	708	0.3%	600	0.2%	△ 108	-15.3%
営業外費用	675	0.3%	700	0.3%	25	3.7%
<b>経常利益</b>	<b>3,944</b>	<b>1.5%</b>	<b>4,000</b>	<b>1.5%</b>	<b>56</b>	<b>1.4%</b>
特別利益	12	0.0%	0	0.0%	△ 12	-
特別損失	70	0.0%	50	0.0%	△ 20	-28.6%
<b>当期純利益</b>	<b>2,008</b>	<b>0.8%</b>	<b>2,100</b>	<b>0.8%</b>	<b>92</b>	<b>4.6%</b>

www.marubun.co.jp

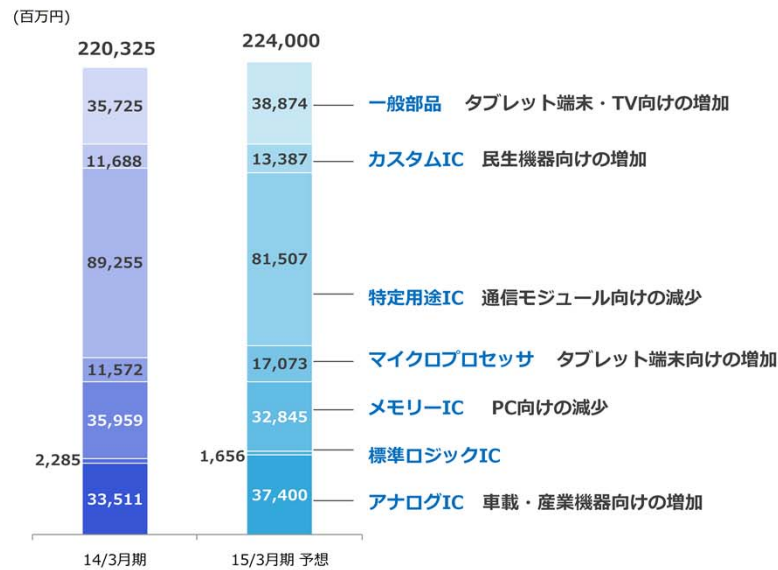
Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

21

- 今年度の見通しについてですが、タブレット向けのマイクロプロセッサや民生機器向けのカスタムICの増加を見込む一方、昨年度好調だった通信モジュール向け半導体や医用機器の反動減を織り込み、2,630億円の売上予算を組みました。
- 利益率の高い商品の構成比が増えることで、営業利益は前年度比1.8億円増加の41億円となる見通しです。

## 2015年3月期 デバイス事業品目別売上高予想



www.marubun.co.jp

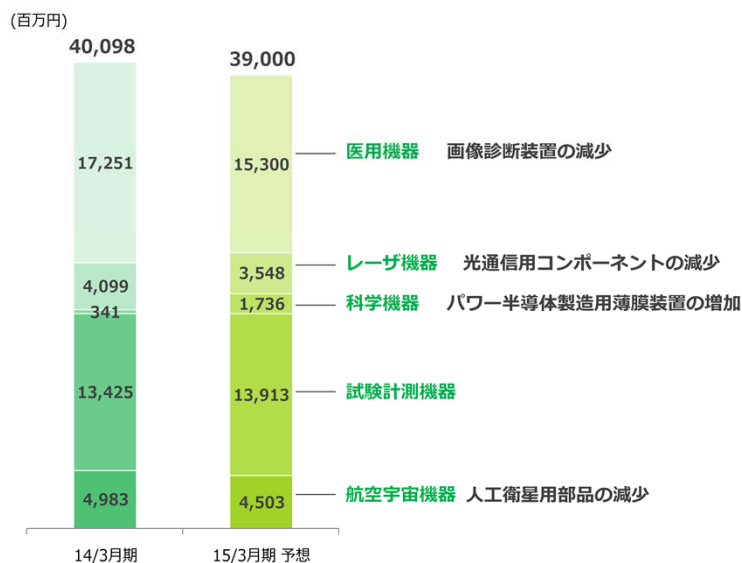
Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

22

- ・事業セグメント別の売上見通しについてですが、デバイス事業では、前年度に比べ36億円増の2,240億円を予想しております。
- ・アナログICは、車載や産業機器向けの増加を見込んでおります。
- ・マイクロプロセッサおよび電子部品ではタブレット向けが伸長する見通しです。
- ・特定用途ICは、通信モジュール向けの減少を見込んでおります。

## 2015年3月期 システム事業品目別売上高予想



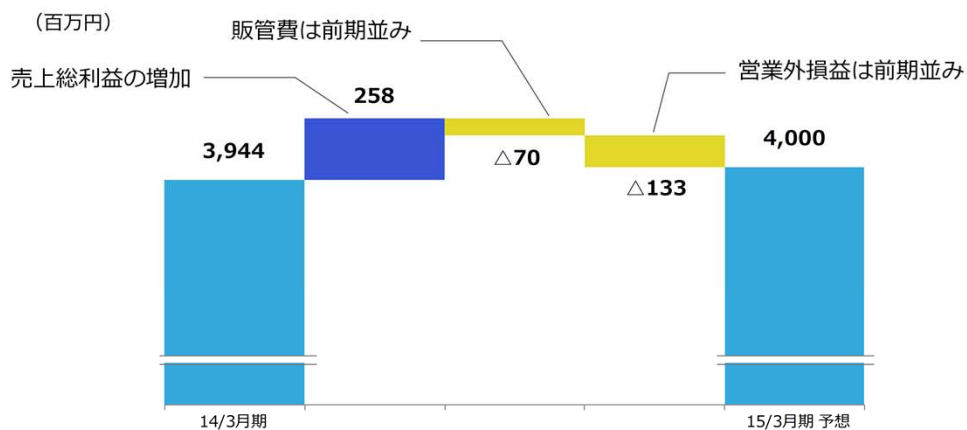
Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

23

- ・システム事業の売上は、前年度に比べて10億円減少の390億円を見込んでおります。
- ・航空宇宙機器は宇宙関連プロジェクトの端境期で4億円の減少となる見込みです。
- ・科学機器は、パワー半導体製造用の薄膜装置の増加を見込んでおります。
- ・医用機器は、昨年度大幅に増加した画像診断装置などの大型医用機器の減少を見込んでおります。

## 経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	<b>売上増による増加</b>	14/3月期：188億円 ⇒ 15/3月期予想：191億円
販管費	<b>業務委託費等の増加</b>	14/3月期：149億円 ⇒ 15/3月期予想：150億円
営業外損益	<b>持分法投資利益等の減少</b>	営業外収益△108百万円、営業外費用+25百万円

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

24

- ・経常利益の増減要因についてはご覧のとおりです。
- ・売上総利益については、前年度より2億円の増加を見込んでおります。
- ・販管費、営業外損益とも前年度並みを見込んでおります。
- ・以上の結果、前年度より微増の40億円の経常利益を予想しております。



## 株主還元

- 配当予想

(円)	2014年3月期	2015年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	<b>19.00</b>	<b>20.00</b>
中間配当	6.00	7.00
期末配当	13.00	13.00

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

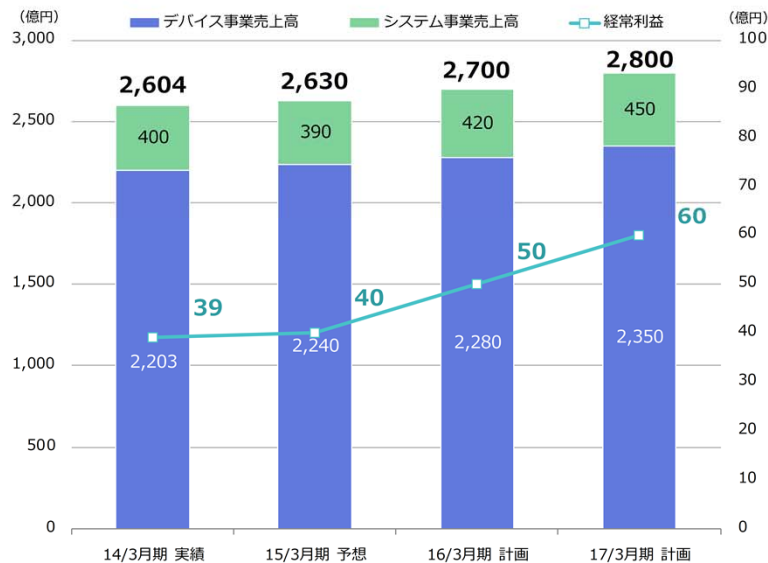
25

- ・株主の皆様への利益還元についてはご覧の通りです。
- ・2013年度の期末配当は13円とし、年間では19円とする予定です。
- ・これは2012年度に比べ、4円の増配となります。
- ・今年度につきましては、中間7円、期末13円、合わせて年間20円を予定しております。

## 中期定量目標（15/3月期～17/3月期）

中期ビジョンの取り組み強化により

**売上高2,800億円 経常利益60億円 を目指します**



Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

26

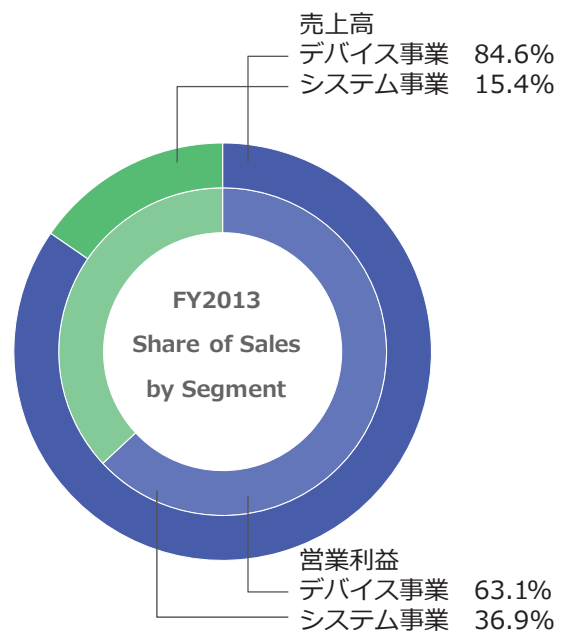
- ・最後に2016年度までの中期目標についてご説明いたします。
- ・中期ビジョンの取り組みにより、売上高2,800億円、経常利益60億円の達成を目指してまいります。
- ・今年4月からは社長である私が営業部門のトップを兼任し、陣頭指揮を執る体制にチェンジしました。
- ・目標達成に向け意思決定の迅速化を図るとともに、攻めの営業を徹底してまいります。
  
- ・皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

## 参考情報

Copyright © 2002-2014 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

### 会社概要

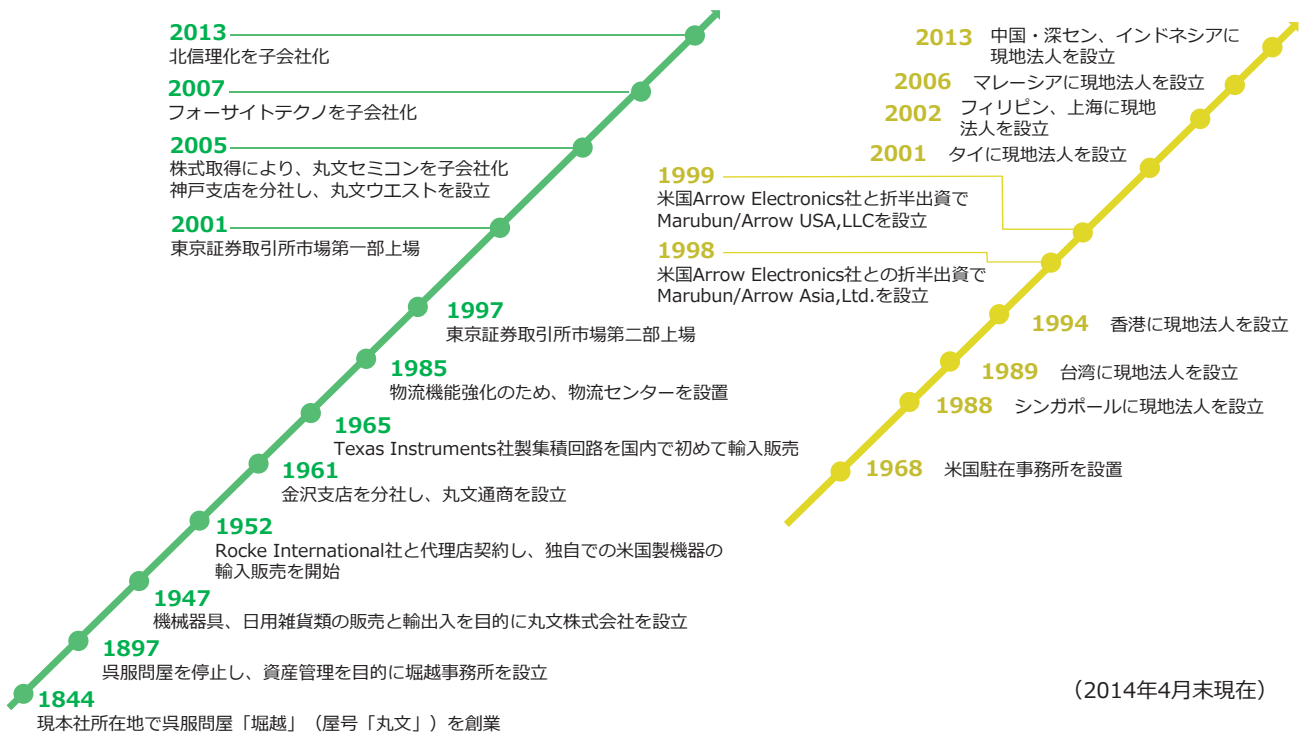
- 設立 1947年7月
- 資本金 62億円
- 事業内容 最先端エレクトロニクス機器・部品の販売
- 本社所在地 東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
- 連結売上高 2,604億円 (2014年3月期)
- 従業員数 1,245人 (2014年3月末現在)



# 事業の変遷

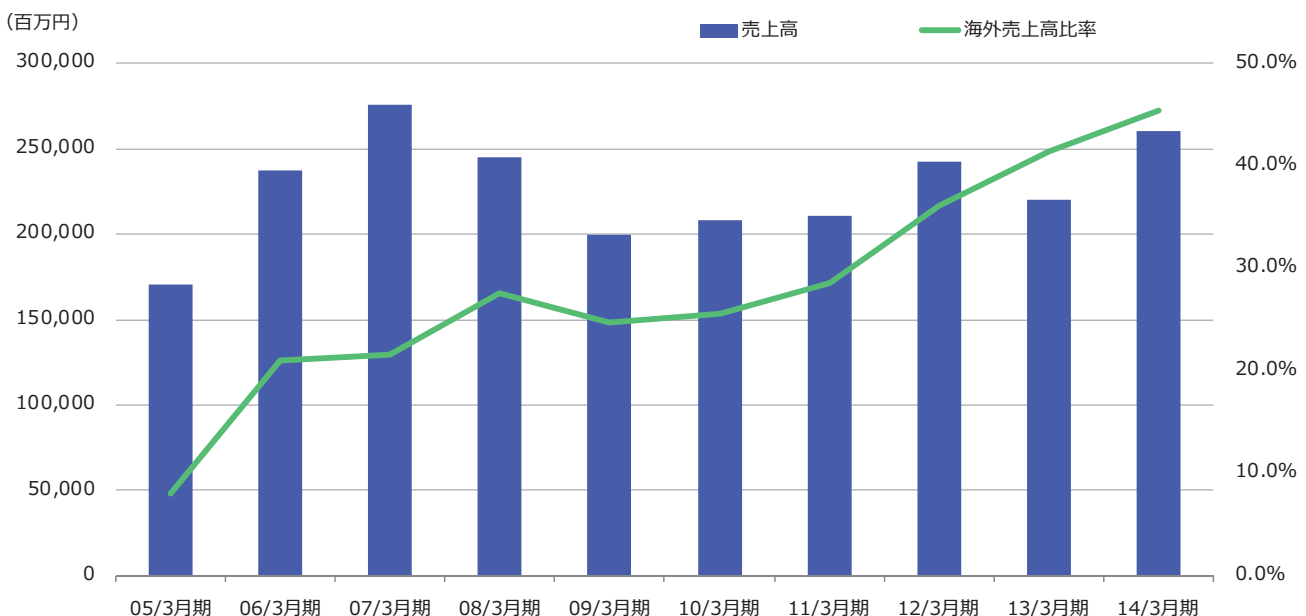
## 国内

## 海外



# 中長期業績トレンド

## 日系電子機器メーカーへの海外展開サポート推進により海外売上高比率が増加

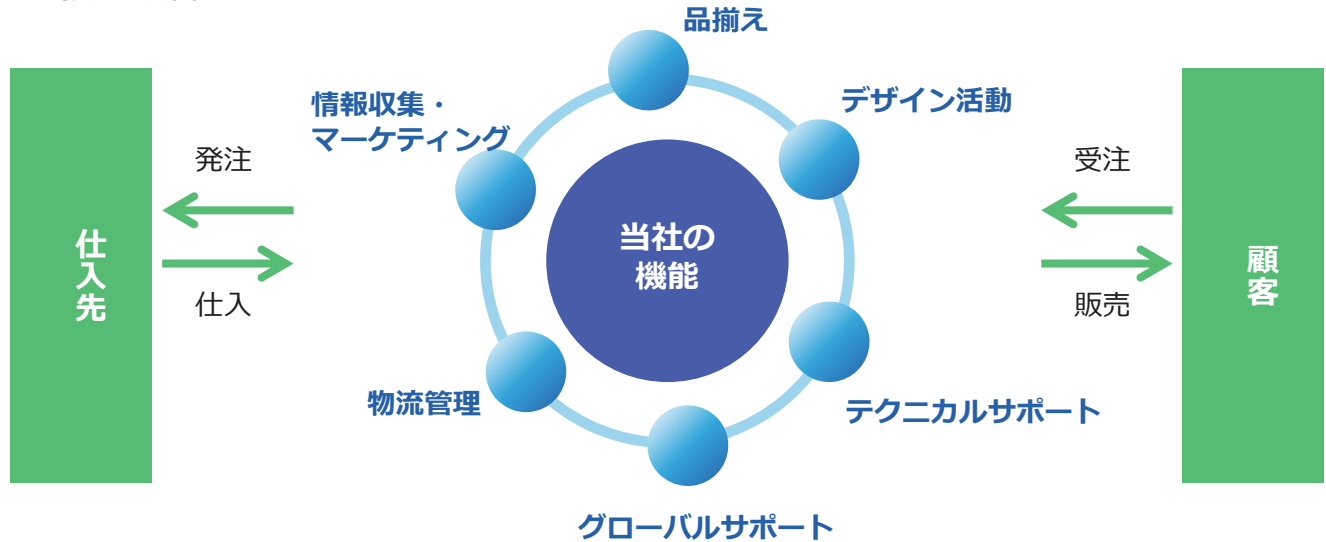




## デバイス事業：特徴と強み



- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社との提携によるグローバルネットワーク
- 強い顧客基盤



www.marubun.co.jp

## デバイス事業：グループ会社概要



社名	住所	設立年月	出費比率	事業内容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	
Marubun Semicon (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アロー-シンガポール、丸文アロー-香港の持ち株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2013年8月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
FTS株式会社*	東京都豊島区	2006年11月	29.3%	半導体の研究・開発、開発支援

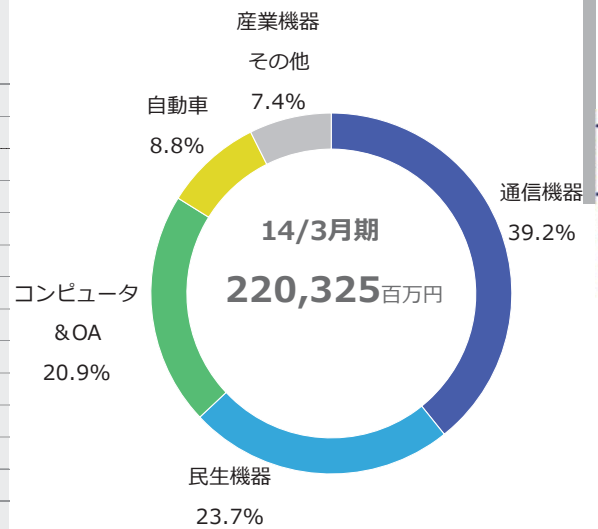
\* Marubun/Arrow USA、FTS(株)は持分法適用関連会社

(2014年3月末現在)

www.marubun.co.jp

## デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		用途				
		通信機器	民生機器	コンピュータ & OA	自動車	産業機器
<b>半導体</b>						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスクリート	●	●		●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●	●	●	
	フラッシュ	●	●	●		
マイクロ プロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
特定用途IC	DSP	●	●		●	●
	ASSP	●	●		●	
	ディスプレイ・ドライバ	●	●	●		
	DMD		●	●		●
	LED		●			
カスタムIC		●	●	●	●	
<b>電子部品</b>						
液晶パネル		●	●	●		●
有機EL		●	●			
水晶デバイス		●	●		●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●	●			



## デバイス事業：主要取扱い製品（サプライヤ別）

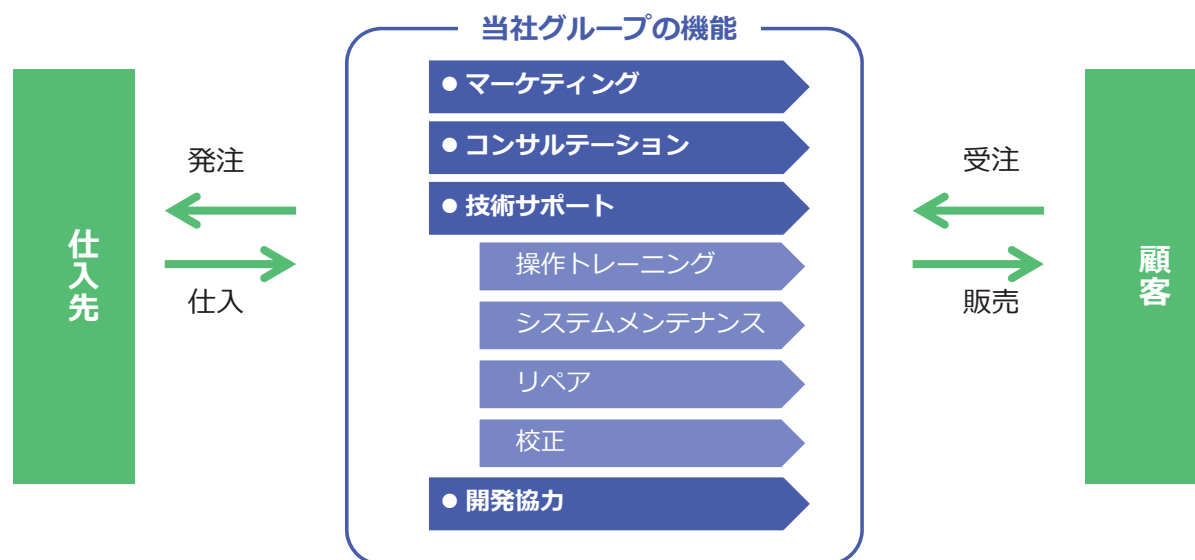
		サプライヤ（五十音順）										
		旭化成 マイクロデバイス	ISSI (米国)	インターナショナル レクティファイアー (米国)	サムスン電子 (韓国)	セイコーエプソン	テキサス・ インスツルメンツ (米国)	トライクイント (米国)	フリースケール (米国)	プロードコム (米国)	マキシム (米国)	モレックス (米国)
<b>半導体</b>												
アナログIC	アナログ	●					●	●	●		●	
	ディスクリート			●					●			
標準ロジックIC							●					
メモリーIC	DRAM		●		●							
	フラッシュ				●							
マイクロ プロセッサ	MPU、MCU					●	●		●			
特定用途IC	DSP	●					●		●	●		
	ASSP	●				●	●	●	●	●	●	
	ディスプレイ・ドライバ				●	●	●					
	DMD				●	●	●					
	LED				●							
カスタムIC		●			●	●	●					
<b>一般部品</b>												
液晶パネル					●							
有機EL					●							
水晶デバイス						●						
コネクタ・スイッチ・プリント基板												●

## システム事業：特徴と強み

システム事業



- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



www.marubun.co.jp

## システム事業：グループ会社概要

システム事業



社名	本社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器、試験計測機器及び電子部品の仕入販売
株式会社 北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 池田医療電機*	新潟県新潟市	1961年8月	41.0%	医用機器などの販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	機器の据付・保守を含めたエンジニアリングサービス提供

\* 持分法適用関連会社

www.marubun.co.jp

(2014年4月末現在)

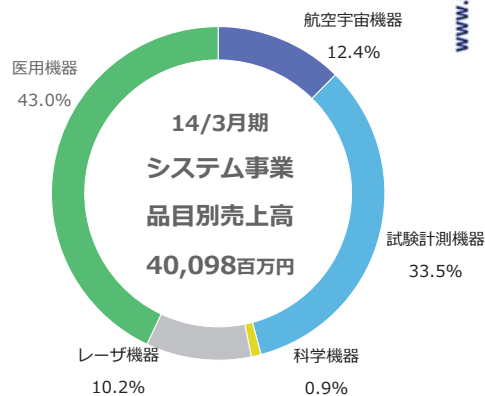


# システム事業：主要取扱い製品

システム事業

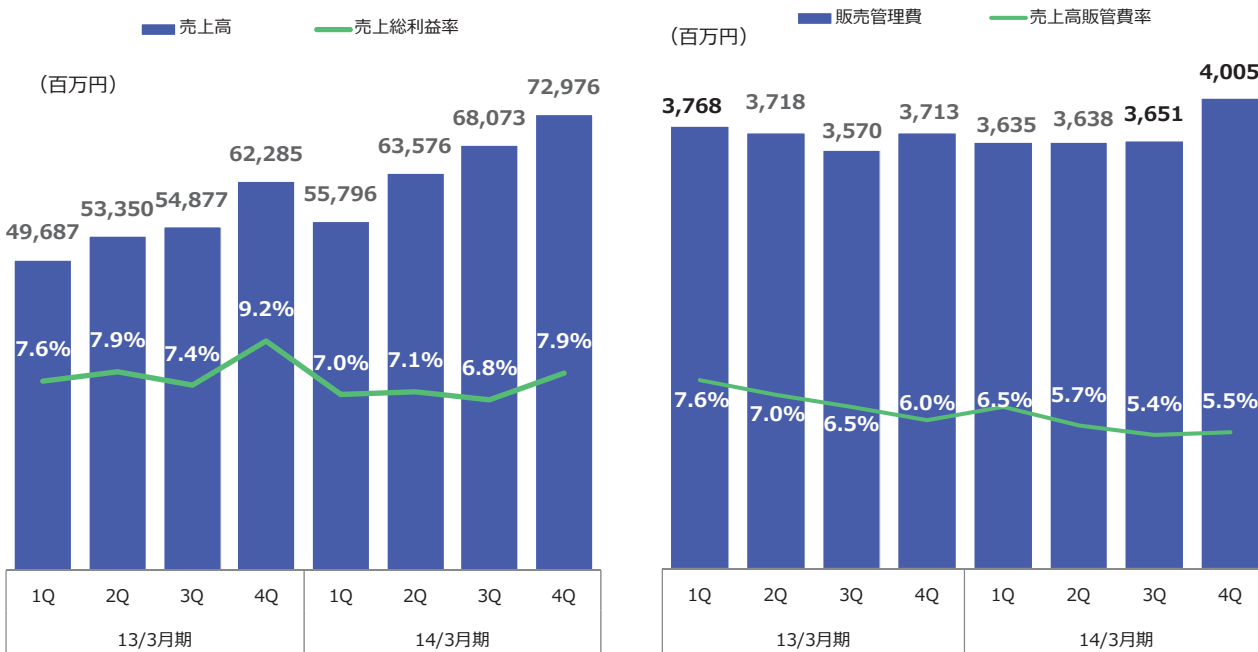


分野	主要取扱商品	主要仕入先
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems、Plascore、Lavision
	航空関連機器	AAI、CPI、L3 Communications
	高周波電子機器	
試験計測機器	検査装置・試験計測器	ユニハイトシステム、アキム、DCGシステムズ、ハイメック
	製造装置・組立装置	セイコーエプソン、日本アビオニクス
科学機器	MOCVD装置 in-situモニタリングシステム	AIXTRON、LayTec
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	Laserline、nLight
	ネットワーク・光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、EXFO、Excelitas Technologies
医用機器	画像診断機器	島津製作所、シーメンスジャパン、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス



www.marubun.co.jp

# 業績四半期推移（売上高・売上総利益・販売管理費）

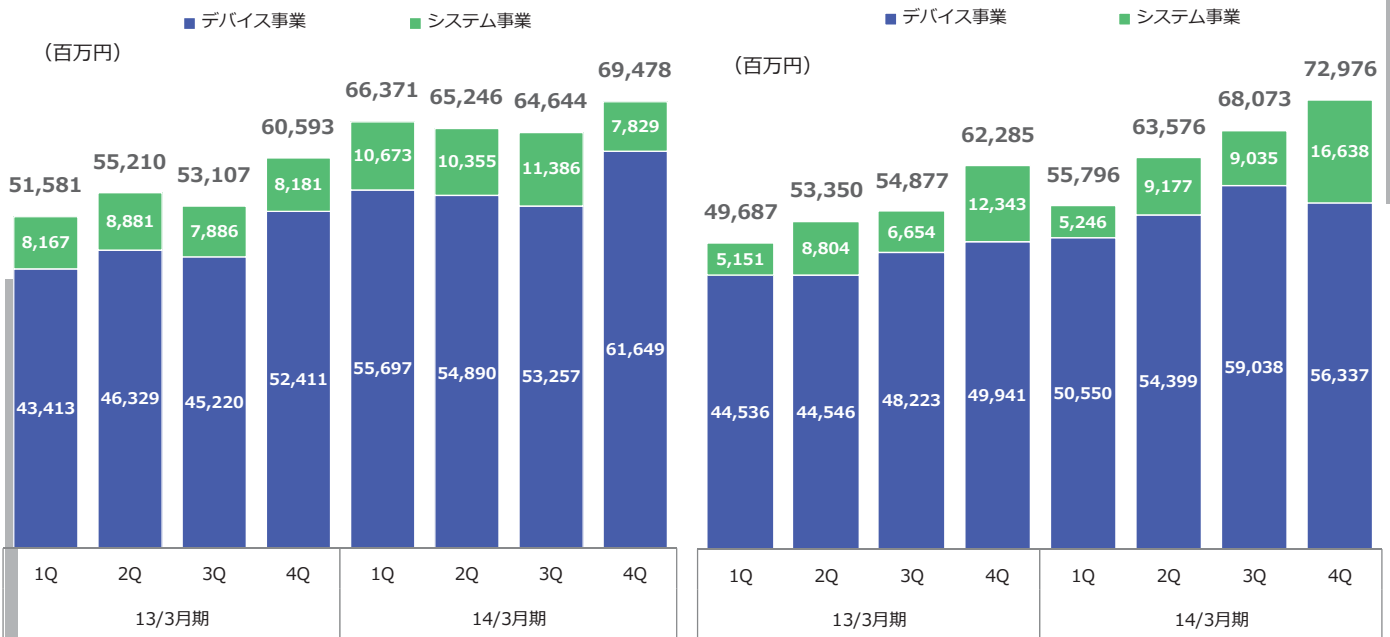


www.marubun.co.jp

# 業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）

## 事業別受注高

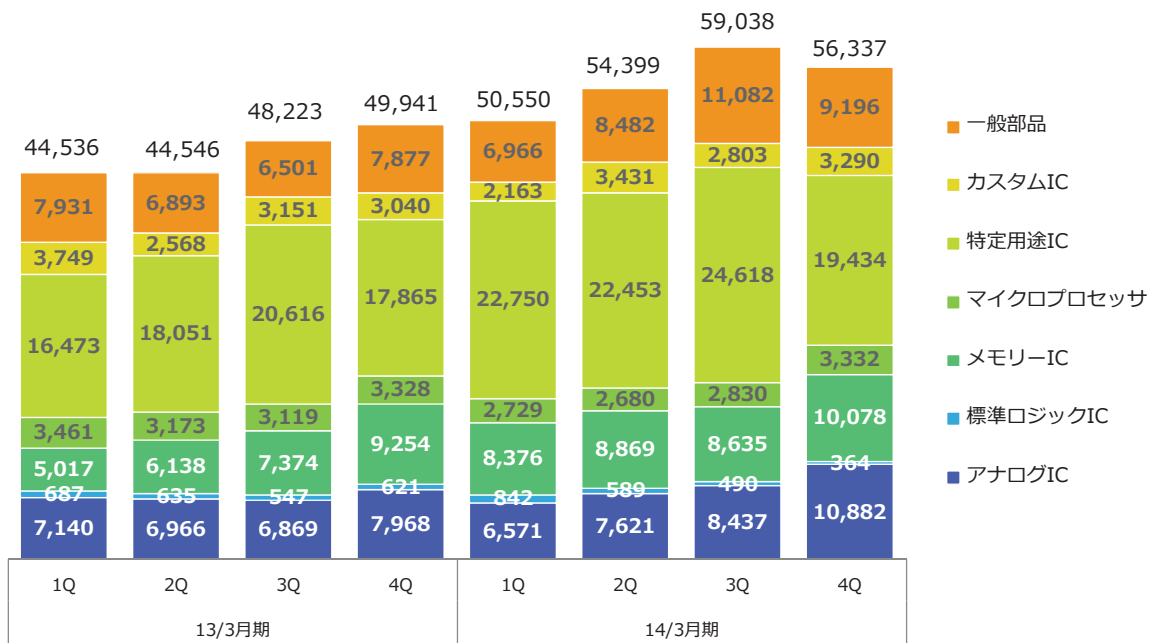
## 事業別売上高



www.marubun.co.jp

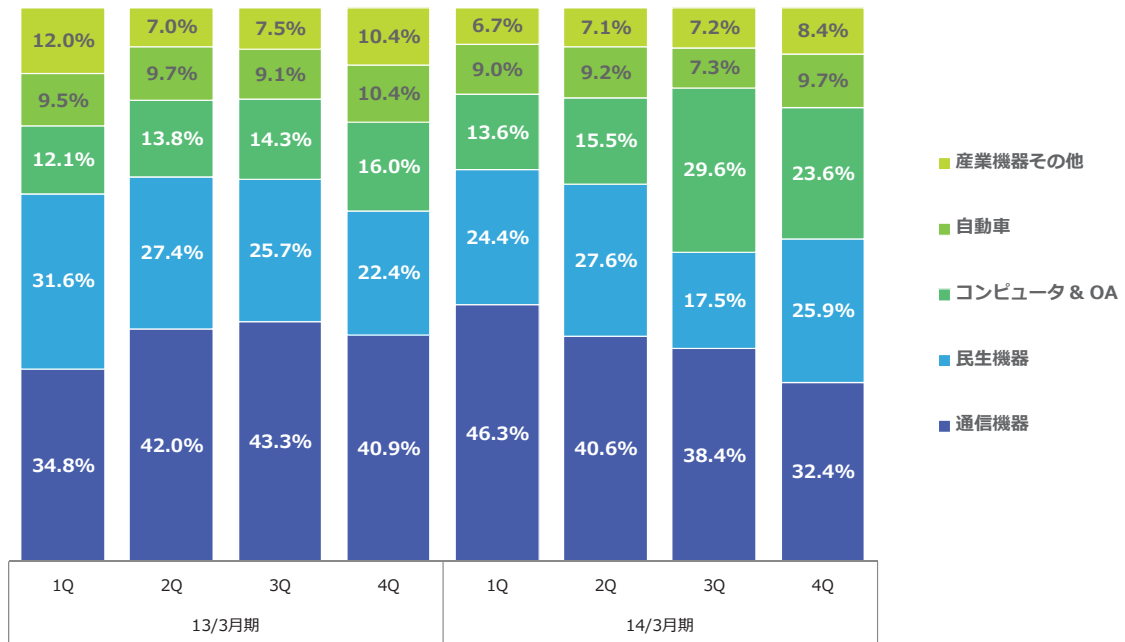
# 業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）

(百万円)

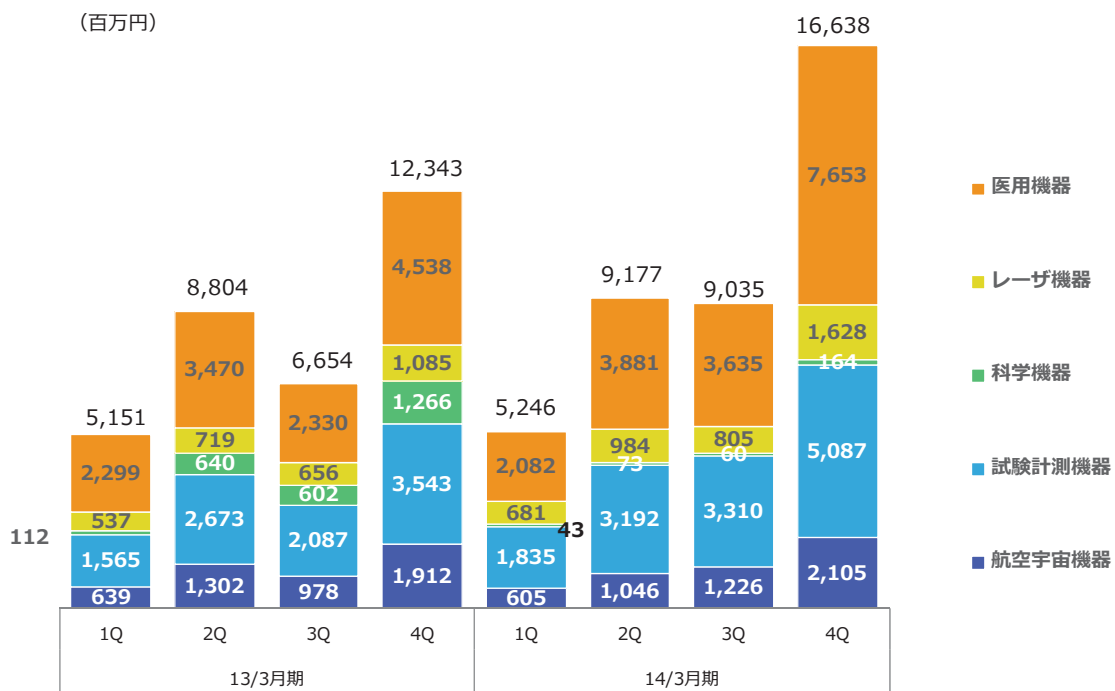


www.marubun.co.jp

## 業績四半期推移（デバイス事業：用途別売上高構成比）



## 業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



## 本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

### 本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp